

赤ちゃんの幸せ(会議資料)

ある日の午後、児童相談所で会議が開かれていました。一か月前の朝、隣町のお爺さんが、筍採りに出かけて、赤ちゃんを拾ってきました。その赤ちゃんの引き取り先を検討する会議です。所長は「児童養護施設に入所させるべきだ。」と主張していますが、若い職員は、「家庭的保育の方が子どものためだと思うから、どこか引き取り先を探すべきだ。」と主張しています。そこで、皆で手分けして引き取り先を探したところ、一組の同性カップルが「里親になりたい。」と申し出てきました。彼らは共に会社員で、生活も安定していますし、とても多趣味なので、文化的な環境も整っていると思われれます。同じころ、一組の片働きの夫婦が、「特別養子縁組を結びたい。」と言ってきました。「長らく不妊治療をしていたけれど、子どもに恵まれなかったので、赤ちゃんを引き取りたい。」と言います。「長期の不妊治療で、貯金も取り崩してしまったので、お金はないけれど、愛情をいっぱい注いで育てます。」と言っています。赤ちゃんを捨てた実母も名乗り出てきました。シングルマザーで、「父親は誰かわからない。」と言っています。「職業もなく、経済的にも苦しいので、自分で育てる自信がない。」と言っています。

赤ちゃんの幸せ(課題シート)

1、「赤ちゃんの幸せ」(会議資料)に登場する5組の赤ちゃんの引き取り先候補について、赤ちゃんの幸せを考えたうえで、順位づけをしてください。あなたが赤ちゃんが一番幸せになれると思う引き取り先を一番とし、以下順に2.3.4.5と、順位をつけてください。同順位はつけないでください。

個人の順位	引き取り先	理由
-------	-------	----

実母

同性カップル

お爺さん

児童養護施設

片働きの夫婦

2、次に、家族としての順位づけをしてください。

司会は決めないで、全員がディスカッションに参加できるような仕方で、全員が納得したうえで、家族としての最終順位を決めてください。

メンバー の名前							家族 順位
実母							
同性カッ プル							
お爺さん							
児童養護 施設							
片働きの 夫婦							

メモ

参考引用文献

「正解のないコンセンサス実習—赤ちゃんの幸せ」 吉田あけみ 『人間関係学研究』
第16号 椋山女学園大学人間関係学部 2018年

「若い女性と水夫」 柳原光 『Creative O.D.』Vol. I 行動科学実践研究会 Press Time
2003年